



東高森団地自治会
 〒259-1114
 神奈川県伊勢原市高森5丁目 TEL 0463-94-6861
 発行責任者 片岡 勇司
 編集責任者 広報部

2022年 夏祭り中止-苦汁の決断

自治会三役から、「今年こそは夏祭りを実施したい」との提案が打ち出された時から、「コロナ禍での夏祭りはどうあるべきなのか」、「新型コロナ第七波の中で実施する事で団地住民にどの様なリスクが有り、影響が及ぶのか」、「関係者は夏祭りをどう考え、どうしようとしているのか」、3回に及ぶ定例役員会、3回の実行委員会での情熱と苦悩を取材し続けて来ました。結果、今年度の夏祭りは諸般の状況を考慮し、残念ながら中止となってしまいました。そこに至るまでの紆余曲折は多々あった中、皆様のご協力の元ジャブジャブ池はなんとか無事開催できました。

中止に至る紆余曲折

新型コロナの為に中止に追い込まれている夏祭り。「今年こそは出来るのではないか」との希望から会議を重ね、「2年連続で実施されず、東高森団地伝統の夏祭りが忘れられてしまう」、「子供達に夏祭りをやってあげたい」、「規模を縮小してでも、是非実行したい」との三役の趣旨説明があり、新型コロナ対策として通年通りの2日間開催案から、1日間の時間短縮案まで、計5案が検討されました。この時点では、「来賓招待無し、アルコール販売無し、出店規模縮小、体温測定入場制限、縮小やぐら設営等の対策をして2日間実施する」と決定されていました。

しかし、日を追うごとに感染者数は増加し、第六波の2倍となり夏祭りの実施自体が危ぶまれてきました。運営側と参加者に更なる感染予防策を要し、夏祭りプログラムもさらなる縮小することを余儀なくされ、1日間の開催でさらに時間短縮する事が提案されました。しかし、伊勢原市内の感染者数が1日当たり230人越えと状況がさらに悪化している中、団地住民の健康を守りながらの夏祭り実施は困難を極め、不可能との判断に至りました。

先が見えない中での実施検討、その上での苦汁の決断。団地住民の方々への関係者の熱い想いには頭が下がる思いです。これまでになかった「感染リスク」と「親睦」という相対する価値観軸を考慮する無理難題に直面し、最終的に団地住民の健康を守る決断に至った経緯は役員も葛藤が重かったと察します。大変お疲れ様でした。

なお、自治会夏まつり開催実行委員長から以下の投稿を頂いています。

夏祭り自治会コメント

今年度の夏祭りは7月3日(日)開催に向け夏祭り実行委員会を実施させていただき2日間の通常開催する方向で

役割分担をいたしました。コロナ禍でもあり感染状況を踏まえた行動ができるように7月18日(月)進捗状況の確認。7月31日(日)第2回夏祭り実行委員会にて役割分担していただいた皆さんには櫓を簡易に組提灯をいかに取り付けるか等考えていただき盆踊りを彩る太鼓の練習も始まり集会所洋室に心地よい音が響はじめました。7月18日(月)進捗状況を確認させていただいた際コロナの感染状況も増加しはじめ通常開催が困難な状況となり簡易開催を提案させていただきました。7月31日(日)第2回夏祭り実行委員会開催される事前に自治会会長・副会長にて打合し伊勢原市のコロナ感染者が200名超の日もある現状では皆さんの安全安心を確保できないと判断させていただき夏祭り中止の判断を致しました。委員会において会長から中止の報告をしていただき承知していただきました。8月6日(土)自治会定例会にて夏祭り中止を提案させていただき賛成多数にて中止を決定させていただいております。7月半ば感染状況の

悪化を踏まえ成瀬地区の自治会は早期に夏祭りの中止を決めております。当団地につきましては皆様のご意見を聞きながら時間をかけ慎重に判断させていただきました。夏祭りは中止と致しましたが感染状況が収束した際には秋祭りを実施の方向で検討いたします。 宜しくお願い致します。

ジャブジャブ池開催される

二年続けて中止だったジャブジャブ池ですが、今年度は福利厚生部、子供会のご協力を頂き、コロナ対策を十分に行って、無事開催することができました。

皆さんの楽しんでいる姿取材いたしました。



楽しかったジャブジャブ池

「わー」「きゃー」と子供たちの歓声が響きます。3年ぶりの「ジャブジャブ池」今年の夏は7月初めから、毎日うだるような暑い日が続きます。今年こそ子供に夏の思い出をと思っていたのですが、暑さと並行して今年もコロナウ

おわりに

酷暑の夏も過ぎ、セミの声と楽しくはしゃぐ夏の声から、静かな鈴虫の音が耳に優しい初秋へと移ろい、この新聞をお読みいただく頃にはさらに秋も深まっている事でしょう。過ぎた夏を思い出して戴ける一句を以って本稿を閉じたいと思います。(広報部一同)

イルスの感染拡大です。しかも新型らしい。外出禁止令は出ていませんが、外出しにくい状況であることは確かです。そんな時、自治会からの回覧板で「ジャブジャブ池」開設のお知らせです。何もかも中止(噂では夏祭りも中止)の中での「ジャブジャブ池」開設は朗報です。子供にとって、いや私にとっても同じかな!なんといっても自宅から水着でバスタオルを肩に羽織って出かけられます。お手軽なプールです。団地も子供が少なくなったと聞いていますが、「ジャブジャブ池」利用の子供も少なくなっているのでしょう。その分、端から端まで自由に遊ぶことができます。お昼に水から上がってタオルで体を拭いているとき、子供の興奮した声で「あ~楽しかった」。この一言で暑さも飛んでしまいます。



夏河を 越すうれしさよ 手に草履

与謝蕪村